

連続講座
全3回

幼い子どももの 文学を考える



文学の面白さを、最初に覚える「幼年文学」。5歳から8歳を中心とした読者を、大人は、長い間、つかみきれていませんでした。英米で幼年文学が成立していく歴史を辿った後、作家・翻訳者・図書館員として活躍された渡辺茂男、松岡享子両氏の作品を通して、日本での受容と幼年文学の魅力を考えていきます。

講師

三宅 興子 さん

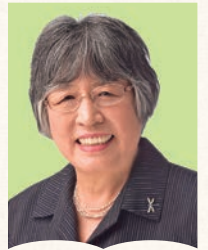
当財団特別顧問、
梅花女子大学名誉教授

児童文学研究者、絵本研究者。

大阪生まれ。日本イギリス児童文学学会会長、絵本学会会長、日本児童文学学会理事などを歴任。2010年～2015年6月まで大阪国際児童文学振興財団理事長を務める。

【主な著書】

『イギリス児童文学論』翰林書房 1993年 / 『イギリス絵本論』翰林書房 1994年 / 『イギリスの絵本の歴史』岩崎美術社 1996年 / 『ロバート・ウェストール』KTC中央出版 現代英米児童文学評伝叢書2008年 等多数



第1回

幼年文学の歴史

—英米の歴史を中心に—

平成
30年 12月22日 [土]

20世紀前半まで、イギリスの影響下にあったアメリカの子どもの本の世界ですが、1930年代から独自性のある作品、特に、幼年文学や絵本を生み出していきます。英米における幼年読者の「発見」に至る歴史を、具体的な作品を読みながら辿ります。

第2回

幼年文学をよむ①

渡辺茂男作品を中心に

平成
31年 1月26日 [土]

作家としても翻訳者としても、渡辺茂男作品は、多くの読者に愛読されてきました。その中から、特に重要な業績といえる「幼年文学」を取り出して、具体的な作品を読みながらその全容を振り返ります。



『エルマーのぼうけん』
ルース・スタイルス・ガネット/作
ルース・クリスマン・ガネット/絵
わたなべしげお/訳
福音館書店 1963年7月

第3回

幼年文学をよむ②

松岡享子作品を中心に

平成
31年 2月23日 [土]

東京子ども図書館の活動で著名な松岡享子さんは、作家・翻訳者・語り手として、「幼年文学」に大きな貢献をされてきました。作品を読みながら、幼年文学と語りとの関わりやユーモアなどについて考えます。



『みしのたくかにと』
松岡享子/作 大社玲子/絵
こくま社 1998年12月

場所 大阪府立中央図書館 2階大会議室

東大阪市荒北1-2-1 近鉄けいはんな線荒本駅 北西400m

時間 14:00 - 16:00

- 対象 / 子どもの本に関心のある方ならどなたでも
- 定員 / 各回50名 (申込先着順)
- 参加費 / 各回 一人 1,000円
- 申込方法 / HP、電話、ファックス (受講希望の回を明記してください)

主催・問合せ



一般財団法人
大阪国際児童文学振興財団
International Institute for Children's Literature, Osaka

助成：子どもゆめ基金助成活動

〒577-0011 大阪府東大阪市荒北1-2-1 大阪府立中央図書館内
TEL 06-6744-0581 FAX 06-6744-0582
http://www.iiclo.or.jp/ E-mail:office@iiclo.or.jp